

令和8年度 CLT活用建築物等実証事業 採択者一覧

番号 (都道府県順)	応募者名 (建築主等)	応募者名 (協議会運営者)	応募事業名	実証の種類	CLTの主な 使用方法	実証する内容	RC造、S造等他工法との比較にかかる提案	建設地	建築物概要	担当者氏名
1	株式会社東上不動産 代表取締役 宮村 明彦	株式会社白江建築研究所 代表取締役 白江 龍三	東上不動産新社屋工事のCLT壁式構造によるZEB実証	設計	構造体	CLT壁構造の『ZEB』(ゼロ・エネルギー・ビルディング)2階建オフィスの実施設計を行い、施工計画を立案し、その過程で課題の検証を行います。 本実証事業では、住宅メーカーや中小工務店が取り組みやすいZEBであること、CLTの施工上発生する欠損や金物の影響の有無および対応策の検証、設計された建築物がZEB として十分な性能があることを実証します。 この実証を通じて、CLT壁構造は他工法に比べてZEB実現上の様々な利点があることを実証し社会に周知し、CLTの普及とカーボンニュートラルの実現に寄与します。	小規模でシンプルな建物であるため、CLT壁式構造の他に、鉄骨造、RC造、在来木造で同性能のZEB建築を作る場合の主要項目の直接工事費を算出し、通常より精度が高い工事費概算比較ができます。計画建物は地方都市や郊外においてニーズが高い規模であり、コスト的に在来木造と競うことが予想され、在来木造とは流通や炭素固定量を含めた検討を行います。国内産が主流で国際情勢の影響を受けにくいCLTに対して、外国産材も多く、人件費の比率が高い在来木造との比較については、社会情勢を含めた考察を行います。	埼玉県東松山市	用途:事務所・店舗 構造:CLT/パネル工法 階数:2 延べ面積:205.67㎡ 工事種別:新築 竣工予定:令和10年2月1日予定	株式会社白江建築研究所 白江 真一郎
2	個人	ユーリ株式会社 代表取締役 木口 真人	IoTセンサーによるCLTの耐久性と維持管理の実証	標準化	構造体	本実証は2か年で実施する。CLT工場加工・出荷時又は現場施工時にIoT対応の無線・有線センサーを設置し、CLT内部及び表面の含水率、温度、湿度を輸送時、建方時及び竣工後まで継続計測する。取得した実測データを基に耐久性を評価するとともに、品質管理から維持管理までを対象としたIoTモニタリング導入ガイドラインを作成する。	RC造では中性化や鉄筋腐食が耐久性上の課題となるが、構造体内部の状態を継続的に把握することは容易ではない。一方、CLTは木材内部の含水率や温湿度を直接モニタリングできるため、劣化要因を早期に検知し、予防保全による維持管理が可能となる。本実証では、RC造とのイニシャルコスト及びLCAを比較するとともに、建物の長寿命化や修繕費低減効果を整理し、将来的な維持管理性及び経済性について比較・評価する。	東京都杉並区	用途:共同住宅 構造:軸組み工法、CLT床、CLT耐震壁利用 階数:3 延べ面積:498.65㎡ 工事種別:新築 竣工予定:令和9年12月31日予定	ユーリ株式会社 武知 俊貴
3	三田工業株式会社 代表取締役 田中 美守	株式会社studio KOIVU 一級建築士事務所 代表取締役 坂口 友希夫	3層通しCLT鉄骨フレーム構法を用いた鉄骨ファブリケート新社屋の設計実証	設計	構造体	3層通し大版CLTを主要構造材とし、鉄骨梁と組み合わせたハイブリッド構法である「3層通しCLT鉄骨フレーム構法」を用いた鉄骨ファブの新社屋の設計実証に取り組む。引ボルトを用いない欧州型の簡易接合部を目指し、施工性、接合部性能、建方精度、工期、コスト及びCO ₂ 削減効果を検証するとともに、鉄骨ファブによるCLT及び鉄部材の一括供給加工管理体制の検証に取り組む。	本構法と同規模・同用途のS造を比較対象とし、構造計画、建設コスト、施工期間、施工人工、揚重計画などのコストを定量的に比較する。また、従来のCLTパネル構法とも接合部の金物数量、施工時間、施工性及び施工管理方法を比較し、本構法による合理化の効果を検証する。さらに、鉄骨ファブが木工事まで一括管理する供給加工体制について、生産性及び供給体制の観点から評価し、中大規模建築への展開可能性と普及効果を将来予測として整理する。	三重県鈴鹿市	用途:事務所 構造:CLT/パネル工法一部S造 階数:3 延べ面積:520.0㎡ 工事種別:新築 竣工予定:令和10年5月30日予定	(株)studio KOIVU 一級建築士事務所 坂口 友希夫
4	株式会社サンヒルズ 代表取締役 岡 友則	株式会社クラスト 代表取締役 下田 聖	(仮称)12階建て集合住宅・店舗「ARAE12 PROJECT」の設計・性能実証	設計、性能	構造体	本建物は12階建ての内、上部9層が木造であり、X方向は木造ルートの集成材を用いたブレース構造としており、Y方向はCLTパネル工法となる。両方向とも、建物規模に応じた耐震要素(接合部含む)の構造データが不足しており、実験により構造特性値を確認する。また、協議会において、接合部の最適納まり等を議論し、防火・遮音等を考慮した汎用性を検討する。加えて、耐火ボード、外壁、サッシ等の納まりを検討する。	現時点ではRC造がコスト的に優位性があると考えられる。本実証を通してRC造と同程度のコストを目指し、課題の抽出と課題解決に向けての検証を行う。	福岡県福岡市	用途:店舗・共同住宅 構造:木造一部RC造 階数:12 延べ面積:1713.38㎡ 工事種別:新築 竣工予定:令和10年10月31日予定	株式会社クラスト 山本 軍営・下田 聖

※番号2の採択事業については、複数年度にわたって複数の課題の実証を実施する。